

小学生の部





生まれて初めてのプレゼント

私は、自分の名前が大好きです。お父さんとお母さんから初めてもらったプレゼントだし、「自分」を証明できるものだからです。人に名前を呼ばれる時が一番好きです。

(太田 莉奈さん)





ゲームの手

ぼくは、はしも上手ではないし、折り紙では何も折れないけど、ゲームをすれば、不器用から器用になります。ゲームなら、ぼくもうまくなれるかもと思いました。もっと上手になれたらいいなと思います。

(谷川 晴生さん)

ひびとくん おはよう

ぼくの思い出は、ひびととブランコにのったことです。たからものはおとうとのひびとときです。ひびとは今生きていたら4才です。まいにち朝おきたら、たいように「ひびとくんおはよう。」と言っていました。

(鈴木 希虎さん)



病院でかわした言葉

ぼくは、小耳症で北海道で手術したとき退院した時におかしをもらえるのですがそこに書いていた言葉によってぼくの宝ものになったものがあります。そこには「ありがとうぼくの友だちではなく宝ものの君」とかいていました。

(中山 健太郎さん)





大すきなお父さん

私のお父さんは、いつも畑仕事をしています。お父さんの作ってくれたやさいは、とてもおいしいです。1番おいしいのは、すごくあまいトマトです。これからも、おいしいやさいをたくさん作ってください。

(小坂 さくらさん)

これから必要な思いやりの出来事

ぼくは駅で荷物をおいて、手すりにつかまっている年配の方を見かけました。しかし、声をかけようとしても何か不思議な緊張感に追いやられてしまいました。けれど、勇気を出してきくと、大丈夫と言ってくれて安心しました。

(富浪 康正さん)



御杖村の景色

私は、自分が住んでいる御杖村の景色が宝物です。のどかで、青空や緑の山、田んぼが広がってとてもきれいだからです。戦争があればそんな景色は見られないと思います。いつまでも、私が宝物とおもえる景色であってほしいです。

(今西 伶さん)



ぼくのばん

お父さん、いつもぼくを楽しませてくれてありがとう。次は、ぼくが、楽しませるばんだよ。

(佐々木 翔一朗さん)

国を越えた優しさ

2年前、私が奈良公園に行った時。私は、鹿に夢中になり、ハンカチを落としてしまったことに気付かなかった。でも、それに気付いた外国の人が、慣れない日本語を使って声をかけてくれた。国を越えた優しさを感じた。

(西岡 詩織さん)

